

の推進

- ①地域の医療・社会福祉施設等における奉仕活動
- ②地域の公共施設での環境美化のための奉仕活動
- ③地域で働いている社会人の講話及び懇談会
- ④地域や学校の諸行事での交流

- ②学級活動を中核とした生き方の指導の推進
- ①学級活動の年間計画の整備

- ②卒業生や保護者の教育力を取り入れた学級活動
- ③関係諸団体との相互連携協力のもと、実体験を通じた進路学習

- ①地域の企業などにおける職場見学や職業体験
- ②近隣の高等学校の訪問見学及び体験入学
- ④自己診断ができるための進路情報の提供と進路相談の推進

- ①自己分析、自己理解のための資料の収集と提供
- ②進路選択のためのデータの蓄積と提供
- ③累積されたデータに基づいた進路相談の実施

- 3 研究の組織

地域指定ということによって推進地域には、中学校進路指導総合改善事業推進会議が設置され、事業を統括している。

実施校である本校では、現職教育部と進路指導部を統合して研究推進委員会を組織している。また、前述の研究内容を受けて、推進の基盤として四つの研究部会を位置付けた。

学校教育全体を通じた進路指導を推進するための「全校活動部」、学級活動を中核とした生き方の指導を推進するための「学級活動部」、体験的な進路学習を推進する「体験学習部」、校内実力テスト等の進路情報の提示や進路相談を推進する「進路相談部」である。(資料3)

4 研究の計画

(1) 三年間の年次計画

第一年次は、研究準備としてとらえ、中学校進路指導総合改善事業の趣旨の理解、研究組織、研究体制、研究実施計画の整備等を進めた。その中で、地域の教育力を取り入れた計画については、一部だけ、実施可能なものについて実践を試みた。また、先進校の視察や資料の収集等も行い、今後の研究に備えた。

第二年次は、第一年次に作成した研究計画をもとに実践し、課題を明らかにし、修正・検討を進める。

第三年次は、それまでの研究をまとめ、また、中学校の進路指導における地域の教育力の活用について、今後継続可能なものとそうでないものについて明らかにする。

資料2 平成7年度 各研究部年間計画

月	全校活動部 ・活動推進計画	学級活動部 ・活動推進計画	体験学習部 ・活動推進計画	進路相談部 ・活動推進計画 ○進路適性検査
4				
5	○*ラティフ活動 (2-1)	○働く事と学ぶ事 (2)		
6	○環境美化カブ運動 ○*ラティフ活動 (2-2)	○将来の希望進路 (1)		○進路調査
7	○*ラティフ活動 (2-3)	○卒業生と語る会 (3年) ○進路選択諸条件 (3)	○高校訪問、体験入学 (3年) ○職業体験 (2年)	○実力テスト(3) ○進路相談
8				○実力テスト(3) ○実力テスト (1,2)
9	○*ラティフ活動 (2-4) ○環境美化カブ運動	○働く人々と職場 (1)		○実力テスト(3)
10	○社会人に関く会 ○*ラティフ活動 (2-5)		○職場見学 (1年)	○進路調査
11	○*ラティフ活動 (2-6)	○自分を知る (1) ○生き方を考える (2) ○学ぶ制度と機会 (2) ○進路先選択検討 (3)		○高校説明会(3) ○実力テスト(3)
12	○*ラティフ活動 (2-7)			○進路相談
1	○*ラティフ活動 (2-8)	○適性と進路(2)		○実力テスト(3) ○実力テスト (1,2)
2		○3年生に関く会 ○進路計画(1) ○将来への心構え (3)		
3	・活動の反省と次年度に向けて	・活動の反省と次年度に向けて	・活動の反省と次年度に向けて	・活動の反省と次年度に向けて

(2) 平成七年度計画

①各研究部の研究計画(資料2)を実践し、主題とどのように関わっているかという視点から進める。

②地域の教育力を活用する実践内容について、関係機関との連携、協力のもと、進路学習への活用の仕方という点から重点的に実践する。

③保護者の協力のもとでの実践、特に、学級活動における保護者参加の進路学習を工夫する。

④「進路の記録」を活用しながら、生徒の進路に対する考え方や職業観の変容をとらえる。

⑤データの保存・修正・検討・活用という点から、同一コンピュータ

5 フトによるデータ保存を進める。

①今までの進路指導計画の見直しを行い、体験的な活動を通して生き方を考えさせるといふ観点から、修正・検討を行い、進路指導全体計画を作成した。(資料3)

②各研究部ごとの実践内容に基づき、全体的な実施計画を作成し、さらに、実施学年で細案を検討して実践する。

③地域の教育力に関わる実践については、どんな教育力を、どの活動場面で、どのように活用していけばよいかについて、究明する。

④実践後は、各研究部ごとに実践計